

Japan Primary Care Association

四国ブロック



発行人：阿波谷,大原,板東,川本,澤田
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・森田宛
Tel.087-876-1185
Fax.087-876-3795

★1 第17回日本P C連合学会四国地方会/第24回四国地域医学研究会 合同学術集会の開催について

大会長 佐野 良仁 (佐野内科リハビリテーションクリニック院長)
大会事務局長 澤田 努 (高知医療センター総合診療科)

第17回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会・第24回四国地域医学研究会 合同学術集会を高知医療センターで開催しました。

平成29年11月18日(土)・19日(日)の2日間、高知医療センターにて開催しました。その内容を報告させていただきます。

11月18日(土)は高知にも寒波の到来した日でした。幸い、午後からは雨も上がり、14時から開始しました。寒さにも拘わらず、102人の参加者が来場されました。

大会長として今回の開催で大きく意識した事が2つありました。1つは、この学会の最大の特徴でもあります、医師のみならず、医学生も研修医も看護も薬剤師も臨床検査技師もセラピストも、医療現場に関わる多職種が参加しやすい大会である事。もう1つは、明日にも診療上に役立つ情報が何か一つでも学んで帰れる事、です。この2つは、当学会に所属してからずっと私が感じてきた、この学会の素敵な2大特徴だからです。



開会宣言の後、14時20分から自治医科大学地域医療学センター長・総合診療部門教授 松村正巳(まつむら まさみ)先生に基調講演をしていただきました。演題は、『地域を診る医師を地域で育てる～地域全体を俯瞰する総合診療の視点～』と題してご講演いただきました。日本が直面している超高齢社会に向って、多臓器疾患を有する患者に対応できる医師のニーズが増加しており、総合医育成の視点からは幅広い分野での多彩な経験が必要となります。一方で、医療需要・システム機能分化・連携の視点からは、高次医療機関における先進医療に特化した、効率的な臓器別縦割り体制の領域もまた必要であります。後者は大学病院でキャリア形成を積むことができますが、前者は大学病院ではもはや、対応・研修しきれない領域であることは事実です。そのため、自治医科大学の実習カリキュラムでは、大胆に地域での医療現場における実習を増やしたそうです。

また、研修医に総合医育成の教育・研修の場として、総合診療内科医師とサブスペシャリティの内科医が診療チームを組んで、そのチームに研修医を配置して、総合内科研修を行うという、新たな取り組みが紹介されました。

後半では、診断にとって大切な3つの要素として、『1つ病歴、2つ病歴、3つ病歴』と、ローレンス・ティアニー先生の言葉が紹介されました。診断に到るためには、何よりも患者さんからの問診により病歴聴取をする事が本当に大切であることを再認識しました。

基調講演の後、今回の大会の企画として、『臨床推論ケースカンファレンス&スキルアップ“グラム染色”ハンズオンセミナー』を開催しました。松村正巳先生には臨床推論の部分でコメントをいただき、その上で確定診断に迫るために手技の一つとしてグラム染色を行う、と言ったコラボ企画です。『ガレノキサシンを1週間服用しているにもかかわらず発熱が続く70歳代男性・肺炎患者』という設定です。基礎疾患にCOPD, 高血圧症、陳旧性脳梗塞があります。2年前に肺炎球菌ワクチン接種済み。そして、若い時に肺結核で右上葉切除術を受けています。皆さん、どのような疾患を想起しますか？



標本は事前に固定標本作製しておいたものを、参加者には染色して乾燥し、顕微

鏡で観察、病原微生物を推定する、という実習です。4カ所の染色と検鏡ブースを設置し、4人の細菌検査技師さんに各ブースに張り付けていただきました。実習希望者は前へどうぞ、と声を掛けたところ、たくさんの方が希望してくださり、お手伝いをお願いしていた細菌検査技師さんも一生懸命説明をして、実習者の質問にも対応しながら検鏡同定の実際を指導してくれました。

30分ほど実習したうえで、実習はそのまま続けながら、臨床推論の続きを行い、当該患者のグラム染色像を提示。「グラム陽性双球菌」でしたので、実は肺炎球菌でした。経過やその後の問診追加から、ガレノキサシン耐性を獲得した肺炎球菌を推定。アモキシシリン内服にて治療開始。5日後の培養結果報告では推定通りで、しかしすでにその時には治療も奏功し、勝負はついていた、と言った症例でした。実習も推論も、参加者に非常に好評をいただきました。

2日目の19日は、8時30分から家庭医療専門研修の後期研修医が2名による、ポートフォリオ発表会を開催。フロアの医師からの質疑やアドバイスにより、建設的な議論がなされて、症例の理解や今後の方向性への示唆が広がり、良い会になりました。

その後、20題の一般演題口演がありました。中でも、20題のうち5題においては、医学部学生（1年生、3年生）による発表でした。

- 愛媛大学医学部1年生基礎配属学生の学びに関する報告
- 生活習慣が糖尿病と睡眠に与える影響
- 在宅医療における患者家族の不安感とその要因
- 漢方専門病院における漢方薬処方の特徴と病院総合診療外来への対応について
- 徳島県山間部の病院における通院費用が患者に与える負担

いずれの演題も、その内容を見ると、色々な調査結果を踏まえて纏め上げた、多大な時間と労力の結晶である発表で、大変感心し、そして感動しました。学生でここまで纏め上げることの大変さは多大なものだったと思います。



1日目の基調講演とハンズオンセミナー、そして2日目のポートフォリオ発表会と一般演題、いずれも「明日からの診療に、すぐにも役立ち実地診療に活かせる内容」が散りばめられていたと思います。参加者の皆様の一つでもお役に立てられれば、準備したスタッフ一同、この上ない喜びであります。



小松真先生におかれましては、長年にわたり、すべての四国大会にご出席いただき、いつもいろいろなサポートを賜り、まことに感謝申し上げます。大先輩である小松先生のプライマリ・ケアに対する小松イズムを私たちも学び、近づいていきたいと思っております。

このたびの大会では、多くの方々にお世話になり、まことにありがとうございました。

★2 祝賀会および「徳島大学AWA広域総合診療専門研修プログラム」

平成29年9月2日、同年4月1日付で徳島大学病院で診療活動を開始した総合診療部の新設と同診療部の部長・教授に就任した谷憲治教授の教授就任を祝う祝賀会が開催されました。大学関係者、県内医療機関、県・医師会・青藍会（大学同窓会）の皆さん、そして大学総合診療関係のスタッフにお集まりいただき、クレメントホテル徳島で盛大に開催されました。今後は県内の様々な医療機関との密な連携を図りながら、大学病院として総合診療にもしっかりと関わってまいりたいと存じます。

徳島大学病院総合診療部 谷憲治



また、これまでで総合診療医学分野として関わってきた医学生の地域医療教育や地域医療への貢献にも継続して関わりながら、卒前だけでなく卒後へのシームレスな総合診療医の育成にも貢献してまいります。徳島県内全体を研修地とした新専門医制度の総合診療専門研修プログラム「徳島大学AWA広域総合診療専門研修プログラム」も作成し、来年度からの専攻医の受け入れを目指しております。

関係者の皆様におかれましては、引き続きのご協力、ご指導よろしくお願いたします。

★3 PC教育の一環として日本PC連合学会の大原昌樹、加藤正隆先生による学生向けの講義

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座（愛媛）川本 龍一

☆「高齢者医療と福祉—求められる医師像—（2017.10.26、東温市）綾川町国民保健陶病院院長 大原昌樹先生

先生が地域の第一線で取り組んでおられる多職種連携のなかでの地域をケアする取り組みについて具体的な事例を交えながらわかりやすく解説していただきました。今回の講義では、地域で活躍する様々な職種、医師、看護師、ケアマネージャー、サービス業者、住民、業者についてその役割も説明していただきました。病院づくりもとても素敵で、障害のある方が運営する売店、患者さんと一緒に行う行事など具体的にお示しいただきました。患者さんの背景や生活環境の把握の重要性、老健や特養施設の役割、在宅医療の醍醐味やメリット、患者さんとの交流を通して、地域で活動することの喜びや遣り甲斐などについてもお話いただきました。

訪問診療



脊髄損傷の夫を介護する妻 円背がひどく歩くのもやっと

☆「家庭医によるタバコフリー活動」(2017.11.2、東温市) かとう内科クリニック院長 加藤 正隆先生

たばこは、ニコチン依存症を引き起こす病気であり、もたらされる害と影響の大きさについて、発症機序、それに対する具体的な取り組みについて海外の現状を交えながらわかりやすく講義いただきました。今回は、パソコンとスピーカーの不具合から音声が出ませんでした。いつもと同様に全身を禁煙グッズで包み講義する姿に先生の熱意と熱い息込みが伝わる講義でした。



☆ 日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会で愛媛大学医学部地域医療学講座配属1年生の発表

「愛媛大学医学部1年生基礎配属学生の学びに関する報告」と題して、樋口 希、宇都宮志織、菊地聡太、須之内 真琴、升 瞳碧、西田 瑞希さんが発表。愛媛大学医学部では、医学部入学早期から学生の希望する研究室に所属し、実習や研究活動を通じて少人数での学習に取り組んでいます。



現在、地域医療学講座には、4年生5名、3年生1名、1年生6名が所属し活動しており、その活動について学生の地域医療に関する思いの変化を交えて発表されました。

★4 第17回日本PC連合学会四国地方会 関連企画 キャリアCafé mini・早朝ラン

高知大学医学部家庭医療学講座 西村真紀

11/12 地方会終了後の1時間、学会男女共同参画委員会主催のキャリアCafé miniを開催しました。昨年度も好評だった企画で、さまざまな立場の方が交流したりキャリアに関する相談をしたりしました。学生さん、専攻医の皆さん、指導医の皆さん、薬剤師さんなど16名の参加者で軽食を食べながら楽しくワイワイと交流ができました。子どもの受験期と仕事に関する相談や、認定薬剤師に関する話題など、役に立つキャリア相談もありました。



11/12 地方会開始前の早朝には、学会学術大会でも定番になりつつあるランニング企画を四国地方会で初めて行ってみました。11月なのにびっくりする寒い朝でしたが、まだ日の出

前に高知城をスタートして鏡川まで2.3km(往復の人は4.6km)のランニングをしました。学生さんから定年がそう遠くないおじさんおばさんまで、歳の差を感じない仲間を楽しみました。その後、8時半にはみんなスーツ姿でしっかり地方会会場にいたのはさすが!と思いました。



★5 香川プライマリ・ケア研究会について

平成29年度香川プライマリ・ケア研究会
香川県・綾川町国民健康保険陶病院 大原昌樹

2017年9月3日(日)13~16時、香川県高松市JRホテルクレメント高松において、「香川プライマリ・ケア研究会」が開催されました。香川プライマリ・ケア研究会は、県内医療福祉の13職能団体(医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会、栄養士会、臨床検査技師会、歯科衛生士会、介護福祉士会、ホームヘルパー協議会、介護支援専門員協議会)と県で構成されています。



まず、10職能団体と香川県長寿社会対策課の11演題の発表がありました。香川プライマリ・ケア研究会は、この多職種多機関の一般演題が特徴で、主な内容だけでも、口腔ケア、誤嚥性肺炎、通所介護、生活期リハ、離島医療、訪問看護・リハ、リンパ浮腫ケア、医科歯科連携、訪問薬剤指導、在宅医療・介護連携推進事業などがありました。県内でさまざまな取組みが行われていることがわかり、勉強になりました。



特別講演は、神戸大学感染症内科岩田健太郎先生をお招きして、「プライマリ・ケアにおける感染症対策」の演題でご講演いただきました。感染症というと細菌やウイルスの難しい名前が出てきてわかりにくいことが多いのですが、岩田先生は、病室に花を持ってくるのは本当にいけないのか、という実際的な話から入り聴衆を引き付け、その後、施設入所の際の診断書に感染症の項目は本当に必要かというような現場に即したお話しをしていただきました。スライド・資料なしの講義で事務局がたいへん心配していましたが、1時間があっという間に過ぎ、参加者にも好評でした。

★6 徳島県プライマリ・ケア研究会について

徳島県プライマリ・ケア研究会が、平成 29 年 10 月 14 日にグランドパレス徳島で開催されました。前回は 29 年 3 月に行われ、その際には、糖質制限の活動を続けられ、いくつかの著書で広く知られている三島学先生のご講演などが行われました。

今回は、川崎医科大学消化器外科の上野富雄先生による特別講演があり、消化器学や医学・医療などについてお話をされました。また、ほかには、プライマリ・ケア医学や高血圧、生活習慣病、糖尿病、透析における神経障害、サプリメント、理学療法、スポーツ医学、音楽療法、統合医療などからの発表があり、自由な議論も活発に行われました。

徳島県プライマリ・ケア研究会 板東浩



★7 四国ブロック地方会 ポートフォリオ発表会

愛媛生協病院 原 穂高



大会 2 日目の朝 8 時半から 1 時間、家庭医療後期研修専攻医ポートフォリオ発表会が行われました。朝早くから多くの聴衆に参加して頂きました。

一人目の発表は専攻医 3 年目、綾川町国民健康保険陶病院 佐々木宏樹先生です。テーマは「終末期ケア」。90 歳、認知症、寝たきりの女性の症例でした。報告のあった経過は 2 年間でしたが、佐々木先生が関わったのは最期の数ヶ月でした。看取りに至るまで、訪問診療をしながら患者さんの家で家族カンファレンス、多職種カンファレンスを行い、患者さんにとって本当に望ましい対応はどうかを議論を重ねていました。主治医として、延命できたのではないかと、救える命を見捨てているのではないだろうかという。

ジレンマに陥りそうになりながらも、日本老年医学会による「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン：人工的水分・栄養補給の導入を中心として」を参考にしながら症例と向き合うことで、生じていたジレンマを軽減し、自分の判断に自信を持つことができたという内容でした。また高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン：人工的水分・栄養補給の導入を中心として、にある意志決定のフローチャートをスライドに起こして説明を加えることで、その時の自分の選択が見えるようにしていました。

質疑応答では家族カンファレンスや多職種カンファレンスを持つに至る経過を丁寧に記すことで、受け手によく伝わるのではないかと、とのアドバイスがあり、実際に提出するポートフォリオの参考になったのではないのでしょうか。



二人目の発表は徳島県立海部病院の稲葉香織先生です。テーマは「BPS(生物心理社会)モデル」。67 歳、糖尿病、アルコール性肝硬変の男性の症例でした。低血糖で救急搬送されて入院してから間食をつづけており、スタッフがさじを投げかけたその時に、あと少しだけ頑張ってみようとしたところから物語が始まりました。ヘルスリテラシーという視点で患者さんを見直すことによって、これまで患者さんについて思い込んでいたことが全く違って見えてきました。そのイメージの変化を図示して伝えてくれました。考察として患者のヘルスリテラシーが低い場合、そのことを認識することで患者に対する陰性感情が改まり客観的な判断ができるようになること、介入の仕方が分かるようになること、その際のコミュニケーション技法を紹介していただきました。

質疑応答で、インスリンや経口血糖降下薬の調整について Bio 領域の提案があり、また糖尿病+アルコール依存+経済的困窮がある場合の予後の悪さについて PsychoSocial 領域での紹介がありました。まだ継続中の症例であるため、ひきつづきポートフォリオ対象としてこれから先も大事にしてほしいと激励されました。

今回も朝から多くの参加と、質疑をいただきありがとうございました。これからも機会を提供できるようにして頂きますと幸いです。



＜四国ブロック 春のポートフォリオ発表会のお知らせ＞

専攻医のみなさん、プログラム責任者および指導医の先生方へ

日々多忙なかでの研修おつかれさまです。四国ブロックでは 1 年に 2 回、ポートフォリオ発表会を予定しています。秋の地方会に 1 回開催、そして春に 1 回の開催です。今回は春のポートフォリオ発表会のお知らせです。2018 年 2 月末に予定していましたが、諸事情により現在調整中です。御迷惑を掛けて大変申し訳ありません。

日程が決まり次第、プログラム責任者にお知らせしますので専攻医のみなさんにおかれましてはどうかできるかぎり参加して頂きますようお願いいたします。またプログラム責任者・指導医の先生には、専攻医が参加できるように御配慮をお願いいたします。できましたら専攻医がポートフォリオを発表する場に応援に来て頂きますと心強いですし、他のプログラムの専攻医のポートフォリオを見ることもできます。四国の専攻医の交流の機会ともなります。どうぞふるって御参加ください。